



CORPORATE REPORT **2023**



©Satoshi TAKASAKI/Japan Triathlon Media

VLSP-2023-006

©につぼんど真ん中祭り

■ セレスポの使命

私たちは、 すべての人々に 大切なものを お届けします。

～ touch your heart ～

セレスポは、年間10,000件以上のイベントを
お手伝いしているイベント制作会社です。

全国に拠点をもち、

セレモニー・スポーツ・プロモーション・

フェスティバル・コンベンションを5つの柱に

企画・演出から当日の設営・運営に至るまで、
トータルでプロデュースしています。

私たちは、感動・希望・思いやりなどを

イベントでつながる皆さまに

お届けします。

Contents

01-05 セレスポの価値創造

- 01 セレスポの使命
- 02 セレスポの幸福
- 03 トップメッセージ
- 05 価値創造プロセス

06-10 セレスポの成長戦略

- 06 2030年ビジョン／中期経営計画
- 07 特集：社員が語る
セレスポの「強み」と「未来」

11-12 事業概況

- 11 部門別の概況
- 12 財務・非財務ハイライト

13-20 サステナブル経営の推進

- 13 サステナビリティ推進体制
- 14 サステナビリティへの取組事例
- 17 コーポレート・ガバナンス体制
- 18 役員紹介
- 20 社外監査役メッセージ

21 アウトライン

- 21 会社情報

■ 経営理念

イベントを通じて 自らを含む 周囲の幸福を実現し、 笑顔のある 明るい社会づくりに 貢献する。



私たちは「イベントを通じて笑顔のある明るい社会づくりに貢献する」という経営理念の実践に努めています。

その際に重きを置くのが、周囲のステークホルダーへの貢献です。

ステークホルダーとして、社会、株主、顧客、取引先、社員を意識しました。社員が楽しんで働くことがよい仕事につながり、

それが周囲の幸福を実現し、その状況が自分たちの新たな幸せとして返ってくる。

そんな「幸福の連鎖」を生み出すよう努力してまいります。

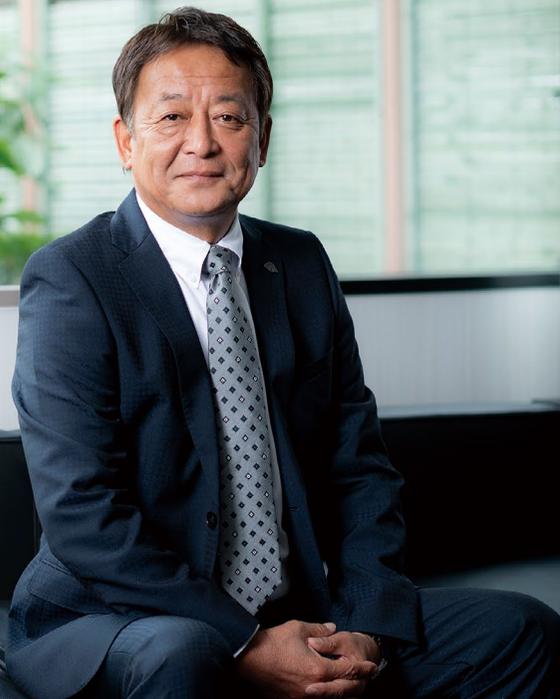
※1 ESP: イベント・ソリューション・パートナー/プレーヤー
 ※2 CSR: コーポレート・ソーシャル・レスポンス(企業の社会的責任)
 ※3 CSV: クリエイティング・シェアード・バリュー(経済的価値と社会的価値を同時実現する戦略)

TOP MESSAGE

強みである「現場力」を さらに磨き、 社会課題の解決と 業界の発展に貢献します。

代表取締役社長

田代 剛



止措置を受けることに忸怩たる思いはございますが、一つ一つの事に真摯に向き合いながら、次なる飛躍に向けた力を蓄える期間にしていきたいと考えています。

2023年3月期は、「現場力」で 計画を上回る業績を達成しました。

2023年3月期は、新型コロナウイルス感染症に関する受注案件に加えて、再開するイベントの案件数も増加した結果、売上高、各利益共に2023年2月に発表した増額修正値を上回りました。特に、感染防止に関する業務では各行政機関から高く評価をいただき、2023年5月には岐阜県知事から、新型コロナウイルス感染者の受け入れ施設運営に関わった企業として感謝状を頂きました。

よく当社の強みは「現場力」だといわれます。それはひとえに、社員がお客さまの立場になってイベントを開催する目的を理解し、その目的を実現できるよう、より良い現場づくりに励んできたからです。私も社長就任直後から「社長の10歩より、社員の1歩の方が大事」と社員に話してきましたが、1歩どころか3歩も4歩も進んでくれた社員も見受けられ、これが計画を上回る業績につながったのだと思います。



(左)株式会社セレスポ 代表取締役社長 田代 剛 (右)岐阜県知事 古田 肇氏

現状を真摯に受け止め、 信頼関係の再構築に尽力します。

はじめに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のテストイベントを巡る独占禁止法違反に関し、お客さまやお取引先、株主・投資家の皆さまをはじめ、関係する全ての皆さまに多大なるご迷惑とご心配をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

問題点を調査した上でガバナンス体制を強化し、受注段階から手続きを見直すなど、再発を防止するための仕組みづくりを進めています。今後さらに、創業から

50年近くにわたって築き上げてきたお客さまとの信頼関係を再構築するために力を尽くします。

社長に就任してからのこの1年は、全ての支店を回って全国の社員の声を聞くことから始まり、新型コロナウイルス感染症に関する案件が続く一方で、3年間開催されていなかったイベントが復活の兆しを見せるなど、さまざまな変化が起り始めた1年となりました。また、社会経済活動の本格的な再開に伴って、当社が担うべき役割がさらに大きくなっていることも感じられた年でもありました。事業環境が好転する中で、一定期間の入札参加停

■ 2024年3月期は、「原点回帰」の年に。

2024年3月期は、入札参加停止措置の影響で減収減益の見通しですが、大変ありがたいことに、当社の再スタートを願ってくださるお客さまが数多くいらっしゃいます。このように変わらぬ信用と信頼を寄せてくださるお客さまのために、セレスポにしかつくりえないイベントを提供すべく、現場力や企画力をさらに磨いてまいります。

また、2024年3月期は原点に立ち戻る年だとも考え

ています。当社は、1977年に建設式典（セレモニー）と運動会（スポーツ）を主力事業に創業しました。コロナ禍の出口が見えた今、私企業では、3年間開催できなかった周年記念・創立記念パーティーなどの式典を企画し始めたり、社内のコミュニケーションを深めるために運動会を復活させたりするケースが増えてきています。このような式典や運動会をお手伝いすることは当社の原点であり、なおかつ私企業と新たな信頼関係を構築していくことは、今後の事業拡大につながる施策にもなると考えています。

さらには、侍ジャパンが大活躍したWBCのおかげでスポーツの素晴らしさが改めて認識されました。新型コロナウイルスが5類に移行したことで、今後ますます復活するスポーツイベントも増えてくることが予想されます。当社も、さまざまなスポーツイベントを通じて感動を与えられるよう努めてまいります。

■ 若い力と発想で「日本一のイベント専門会社」を目指します。

2024年3月期は、中期経営計画V（2023年3月期～2025年3月期）の2年目にあたります。基本方針として掲げている「向上心の発揮」「現場対応力の向上」「発信力の強化」を引き続き推進するとともに、2030年に当社をけん引しているであろう「価値創造を担う人材育成」も進めてまいります。

当社が目指す2030年の姿は、いかなる状況でも顧客ニーズを先回りしながら優位性を保ち、事業そのもので社会課題を解決し、自らの価値を高めながら業界の発展に貢献できる企業です。2023年度からス



タートした「CAPTAINプログラム」は、当社役員の中では最も若手の林取締役を筆頭に、さまざまな部門で活躍する若手社員が10年後、20年後にどのような会社になりたいのか、どういった事業に取り組みたいのかを考え、それに向かって行動していく取り組みです。会社は、社員が頑張ることで成り立つものであり、我々経営陣は社員にチャンスや時間を与えるために存在しています。こんな会社になりたいと強く考える社員が多ければ多いほどその変化は大きくなるはずです。このプロジェクトを中心に社内に新たな波が起きてくれることを大いに期待しています。

経営者の仕事は、マーケットを拡充するための活動と、社員のモチベーションを高めて成長を促すこと、この二つだけだと考えています。そのために私は、ブログでさまざまな思いを発信し続けてきました。2022年度も3日に一度は書いたでしょうか。私の日々の活動を通じて少しでも刺激を与えられたらと思っています。

いまセレスポは、日本一のイベント専門会社を目指し、内側から変わろうとしています。若い力に期待し、これからの成長を末永くご支援、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

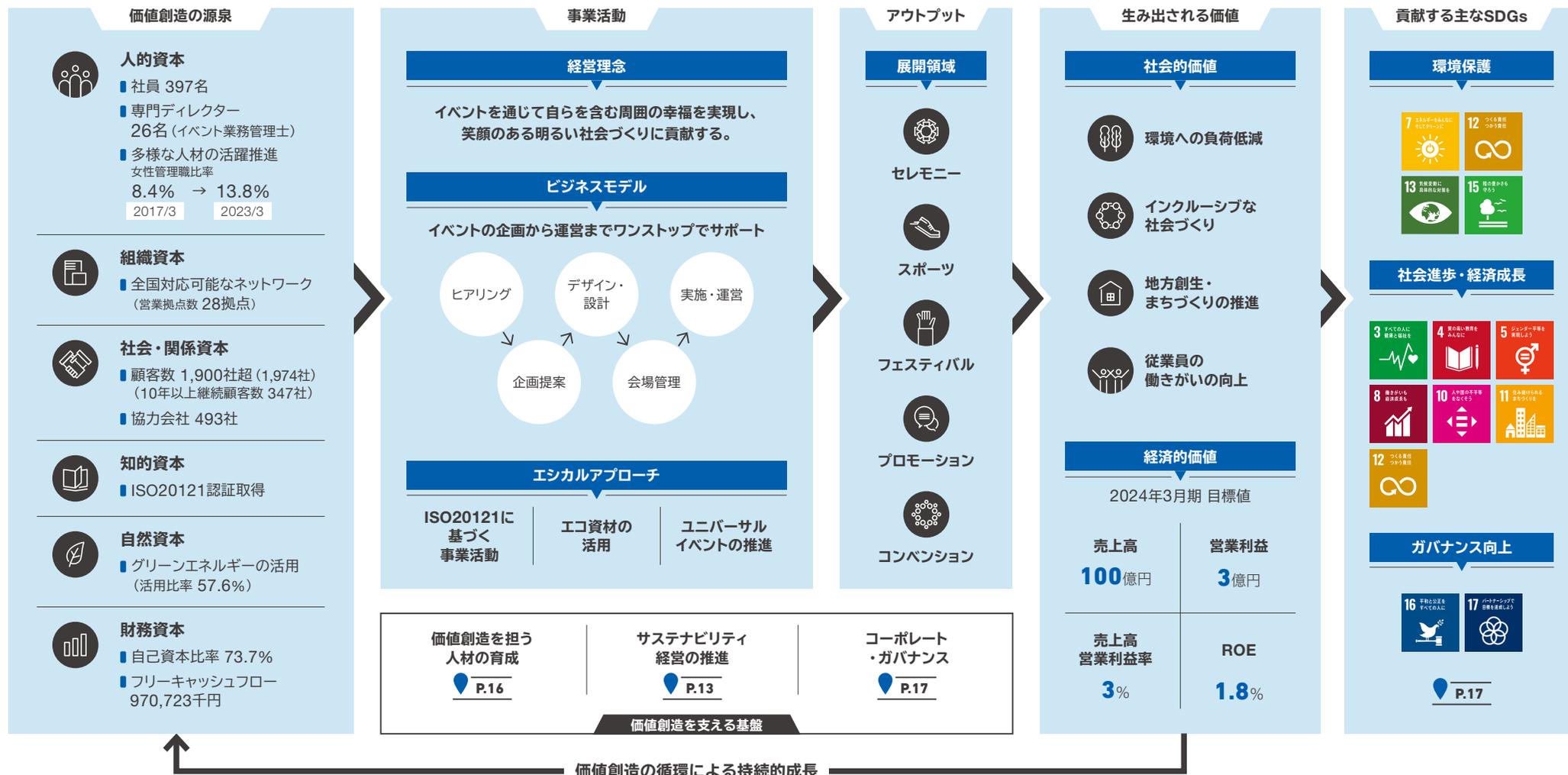


価値創造プロセス

直接体験の場であるイベントは、多くの関心を集めるとともに、情報発信の起点にもなります。

このため、時代の求める変化に適応し、社会の期待や課題に答えていくことがイベント制作においても重要だと考えています。

セレスポは、「イベント・ソリューション・パートナー」として、経済的・社会的価値の創出に努めることで、持続可能な成長を目指してまいります。





2030年ビジョン／中期経営計画

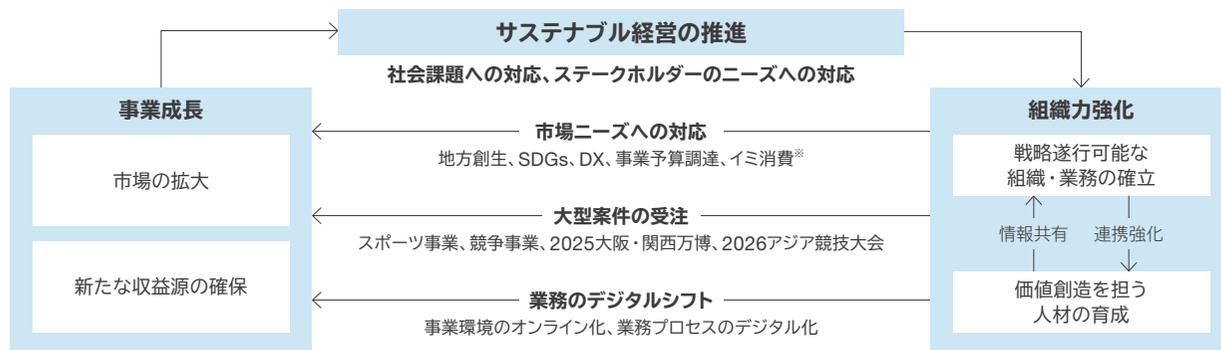
中期経営計画Ⅳにおいては、最大収益を確保して継続企業としての実現に大きな成果をあげることができました。この時の取り組みを継続しつつ、10年先に目指す姿を新たにしてチャレンジしていくために中期経営計画Ⅴを策定しました。



2030 年ビジョン

社会変化に適応し続けられる経営環境を実現

中期経営計画Ⅴ 基本方針



※ イミ消費：商品・サービスそのものの機能だけではなく、それらに付帯する社会的・文化的な価値に共感して選択する消費行動

01

競争優位性の追求

ポストコロナ、ポストDX時代のいかなる状況においても、顧客ニーズを先回りすることで、競争優位性を保ち続ける。

02

社会課題の解決

社会課題を起点としたサステナブル経営の実践により、事業そのものが社会課題の解決策となる。

03

業界の発展に影響力を持つ

イベント業界の変化を成長機会として活用し、自らの社会的価値を高めながら、魅力ある業界として社会に発信していく。

中期経営計画Ⅴの詳細については、当社Webサイト「IR情報」にてご覧いただけます。

➤ 中期経営計画

特集：社員が語るセレスポの「強み」と「未来」

イベントを通じて、
お客さまの
目的の達成と
笑顔ある
明るい社会の実現に
貢献します。

千葉支店
芝田 奈々



さいたま支店
後藤 静二



岐阜支店
室賀 由紀子



まずはセレスポに入社した理由と、いま携わっている仕事を教えてください。

後藤 当社には、学園祭などを通じてイベントに興味を持った、もしくはスポーツに関わる仕事をしたいという社員が多くいます。私も学生時代、スポーツに長く打ちこんできたこともあり、スポーツを支える仕事がしたいと2006年に入社しました。現場を経験したのち、お客さまと苦労を共にしながらイベントを最初の段階から作りたいたいと考え、2年目からはさいたま支店の営業として、多い時は年間50を超えるイベントを手掛けてきました。セレスポでは、イベントを成功させることだけでな

く、その先にある主催者の「目的」を理解して作り上げていくことを大切にしていますので、常日頃それを意識して仕事をしています。

芝田 私も、スポーツやイベントに関わる仕事に魅力を感じて、2018年にセレスポに入社しました。実は大学時代の学園祭の会場設営を手掛けていたのがセレスポで、教授は当社を信頼していたのでしょう。私に入社を勧めてくれました。入社以降は千葉支店の営業として、私企業の運動会などを担当しています。私企業の運動会は、コロナ禍を経て社員同士のコミュニケーションを深めるためにその重要度が増しており、デジ

タル活用のご要望も増えるなど、変化しています。お客さまの期待に応えられるよう、最新の情報収集を心がけています。

室賀 私は、大学生の時に学園祭のステージを作ったり、名古屋で人気のお祭りの会場スタッフをボランティアでしたりしたことがきっかけで、文科系のイベントに興味を持ちました。2019年に入社してまずは名古屋支店に配属されましたが、応援で行った岐阜支店で聖火リレーなどのオリンピック関係の仕事に携わり、そのまま岐阜支店に異動。今も、営業として岐阜県庁のお仕事を中心にイベントに関わっています。



自らを高め続けるとともに 若い社員がチャレンジしやすい 環境をつくっていききたい

さいたま支店
後藤 静二



これまで手掛けてきたイベントで、特に印象深かったものは？

室賀 やはり東京オリンピック・パラリンピックです。コロナの影響で開催日程が延期になったり、無観客になったりと状況が二転三転するたびに調整が必要だった

上、組織委員会から届く大量のマニュアルを短期間で読み込んだりもしました。中でも印象深かったのは、2021年8月に行われた「パラリンピック聖火フェスティバル」です。新型コロナウイルス感染症の影響で会場や日程など一年以上かけて積み上げてきたものが二週間前に変更となり、岐阜県の職員の皆さんや当社の役員、支店長などと連絡を取り合い、助けていただきながら無事に開催することができました。この経験が、何があっても乗り越えられるという心の支えになってくれています。

後藤 直近では、私も、東京体育館の受託企業側の会場責任者を務めた東京オリンピック・パラリンピックですね。プロジェクトチーム発足前に自ら「やらせてほしい」と手を挙げ、担当することができました。実は、入社してから多くのものを吸収してもなお、一つの支店の業務しか経験していないことで、大きく飛躍できていないのではないかというジレンマをどこかで抱えていました。それが、大舞台で、なおかつ大半が外部の方という環境下で、皆と意見交換を行いながらこれまでと違うものを作り上げられました。ここで学んだことは、間違いなく今後の仕事に生きてくるはずですよ。

芝田 私は、2022年12月に行われた木更津市制施行80周年記念事業「チャレスポ」です。公園内にある3x3（3人制のバスケットボール）のコートやスケートボードパークなどを活かした、親子で楽しめるスポーツ体験教室を行いたいと木更津市からご相談をいただき企画の段階から携わせていただくことができました。新規事業ということもあり、課題は多くありましたが予算内で何ができるかをご提案し試行錯誤をしながら木



更津市と一緒にイベントを作り上げました。当日は、来場者はもちろん木更津市からも「こんなに楽しく、しかも楽にイベントができたのは初めて」と言っていたいただき、良いものを作ればそこに信頼が生まれ、次の仕事にもつながるのだと実感しました。

「中期経営計画V」（2023年3月期～2025年3月期） について、現場ではどのように取り組んでいるのでしょうか。

後藤 中期経営計画の素案を出すプロジェクトチームに参加していました。チームメンバーと2030年に目指す会社像を決め、必要な変革や施策、アイデアを上げたところ、その意見の一部が採用されました。中期経営計画に現場の生の声が反映されるのはたぶん初めてではないでしょうか。

採用されたのは、「イベントのDX化への対応」と「デジタルコミュニケーションへの挑戦」です。世の中では急速にデジタル化が進み、イベントでもオンラインや非接触といったデジタル化が進んでいます。また、社内でもデジタルツールを活用し、データを収集してサー



ビスに転換するといったDX化を進めれば、時代の潮流をいち早く掴み、お客さまのニーズに応えられる仕組みが構築できます。社員それぞれに蓄積されている膨大なノウハウを共有すれば、全社的な底上げとなるだけでなく、若い社員たちも現場で活躍しやすくなり、業務領域が拡大するでしょう。

室賀 デジタル化といえば、2022年末に携わった岐阜県庁の新庁舎の竣工式典や内覧会で、数千人にのぼる申し込みや当日の受付をスムーズに行うための方法として、当社のデジタルツールを提案し採用いただきました。デジタル化はお客さまの負担を軽減させるだけでなく、ご来場者の利便性向上にもつながるため、さらに進めるべきだと感じています。

芝田 デジタル活用も含めて、私たちが仕事をする中で直面する社会課題を中期経営計画に掲げ、会社全体で向き合うことができるのは嬉しいですね。イベントを通じてその県や市に魅力を感じてもらい、住人や観光客が増えることにもやりがいを感じています。

また、イベントには女性ならではの視点も大切です。あるイベントを担当した時、ベビーカーを使っている方が動きにくそうに見えて、ベビーカー置き場の設置を提案しました。その結果、親御さんと楽しそうに手をつないで歩くお子さまの姿や、荷物を気にせず楽しむ様子が見られただけでなく、他の方々も動きやすくなり、ステージも広く取れるようになりました。このように女性をはじめ多様な社員の視点を活かしていくことも中期経営計画で掲げている「サステナブル経営の推進」の取り組みの一つだと思います。

セレスポの魅力や強みはどんなところだと思いますか？

芝田 現場力で積み上げてきた「信頼」です。社長はよく「川上からの営業」という言葉を使いますが、お客さまが「こういうイベントをやりたい」と考えた最初

さらに成長するために、より社会的影響力の大きいイベントに主担当として挑戦してみたい

千葉支店

芝田 奈々



の段階からサポートできるよう、常日頃から信頼関係を築き、お客さまが悩んだ時には適切なアドバイスをすることで、信頼関係を深めてこられたのだと思います。

後藤 お客さまはよく当社社員が「真面目で優しい」と言ってくれます。「他社はそこまでやってくれないよ」とも。社内には「顧客起点」という言葉もあり、私も入社した時から、お客さまに寄り添って一緒に考えるのは当たり前だと思ってきました。「顧客起点」が根付いているからこそ、お客さまの声にならない声を聞き、相談に乗り、「来年もよろしく」と言っていただけののです。

室賀 「最初の相談相手になれる」ことは強みですね。官公庁だと数年ごとに部署移動がありますが、他の部署に行かれてもご相談いただけるのは、上司から先輩へ、そして私たちへ信頼関係が継続できているからだと思います。

セレスポの未来を担う人材として、いま取り組むべきこと、これからチャレンジしたいことは？

後藤 2023年から、次世代のリーダーと新規事業を創造するための「CAPTAINプログラム」が始まりました。最終的なゴールは新しい事業企画を役員にプレゼンすることで、もしその提案が採用されれば新規事業としての展開へチャレンジすることもできます。ただ、最大の目的は、ゴールに向かう過程で自分たちがリーダーになるための要素を理解し、当社が持続的な成長を実現するために必要なものを見極め、提案し、



実行できる人材になることです。全国から集まったメンバーの共通点は、現状を打破したい、自分を変えたいなどの「課題感」を持っている点であり、すでに団結して各課題に取り組み始めました。1期生の我々が成功するか否かにもよりますが、今後、ますます手を挙げて参加する人が増えるといいなと思っています。

また、自立人材を育成するためのプログラムもスタートします。このような自ら進んで参加する人材育成プログラムが増えているのは、会社自体に変わらなければならないという危機感があるからです。私が入社した以降だけ見ても事業内容は変化・進化してきましたが、この変化は決して止めてはならないと私自身、強く感じています。

室賀 オンラインのイベントも多くなりますが、リアルイベントの楽しさや達成感はそれとは次元が違います。このリアルイベントを提供することがセレスポの大きな役割なのだと、コロナ禍を経て改めて強く感じています。今後はできれば、いまセレスポが開拓できていないような分野のイベントもやってみたいですね。エンターテインメント性の高い分野もその一つです。例えば、芸能プロダクションなどとネットワークを構築して、アイ

ドルや俳優などに活躍いただくような、より広く、より新しい層に向けて発信できるイベントを手掛けてみたいと思っています。

芝田 お客様の中にはコロナ禍でイベントができなかった間に担当者も変わり、まだイベントを経験していないという方もいらっしゃいます。皆さんに喜んでいただき、かつ主催者の目的を叶えるイベントを継承していくために、当社がサポートできる存在であり続けなくてはなりません。そのためには、私自身も成長していかなければなりませんので、これまでより大きな規模で、より社会的影響力の大きいイベントもメイン担当者として手掛けてみたいですね。一つ一つの経験が、自分の殻を破り、幅を広げてくれるはずですから。

後藤 芝田さんや室賀さんのような若い社員がチャレンジしやすく、チャレンジした時につらい思いをしないような環境を整えていきたいと思います。また、行動制限が解除されて、驚くほど多くの方々がイベントに足を運んでくださるようになりました。来場者に喜んでいただくのはもちろん、イベントはお客様が目的を達成するための手段であり、お客様の実現したいことを表現するツールだということを念頭に、これからもお客様の目的を汲み取り、イベントというツールでどう表現するのか、どう社会貢献するのかを考えながら、一つ一つのイベントと真剣に向き合っていきたいと思っています。

リアルイベントの達成感は格別 まだセレスポが 開拓していないような 新しいイベントも手掛けてみたい

岐阜支店

室賀 由紀子





部門別の概況

基本事業部門



主なイベント

建設式典、記念式典、地域振興イベント、文化イベント、プロモーションイベントなど

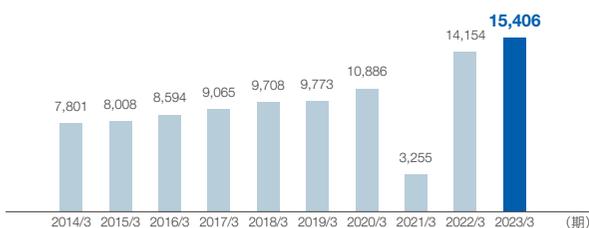
当期の業績

コロナ禍から経済の正常化が緩やかに進み、イベントの案件数が増加しました。また、新型コロナウイルスの対応に関する受注案件の影響により、売上高は15,406百万円と前期比8.8%の増収となりました。

今後に向けた成長戦略

- 現場対応力の向上によって顧客の最初の相談相手になることを目指し、顧客浸透度を向上
- 時代の潮流と顧客のニーズを捉えて業務領域の拡張を目指し、ビジネスの成立と同時に社会課題を解決

売上高の推移 (百万円)



スポーツ事業部門



主なイベント

日本陸上選手権、トリアスロン大会、Vリーグ、ハンドボールリーグ、プロゴルフ選手権など

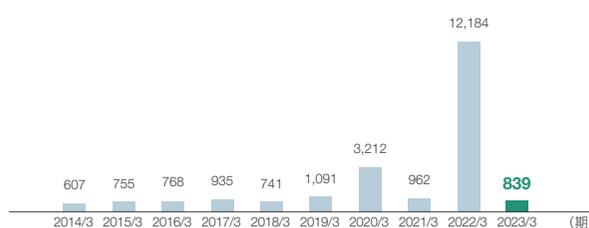
当期の業績

コロナ禍の影響や、前期の一時的な国際的スポーツ大会に関する案件受注と比較すると、案件数および単価の減少が顕著になり、売上高は839百万円と前期比93.1%の減収となりました。

今後に向けた成長戦略

- 中長期的なスポーツビジネスの拡大を目指し、国際的スポーツイベントへの参画
- 地方創生事業を成長領域として設定し、地域の活性化に貢献する事業の提案

売上高の推移 (百万円)



競争事業部門



主なイベント

国民体育大会、全国高校総体、植樹祭、育樹祭など

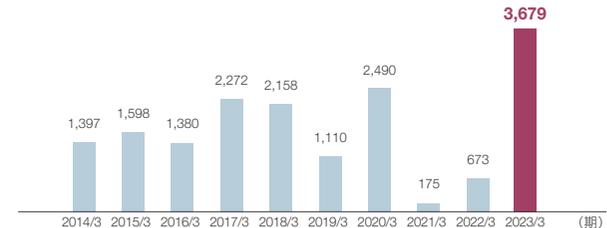
当期の業績

コロナ禍の影響を受けた前期と比較すると、経済の正常化が緩やかに進んだことで、案件数および単価が大幅に増加し、売上高は3,679百万円と前期比446.2%の増収となりました。

今後に向けた成長戦略

- 顧客起点の発想に基づいたイベント制作能力のさらなる強化
- コンサルティング力のさらなる強化を図り、継続的な皇室ご臨席行事への参画

売上高の推移 (百万円)

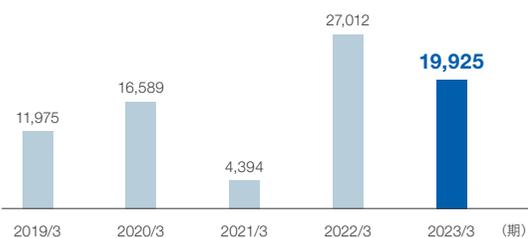




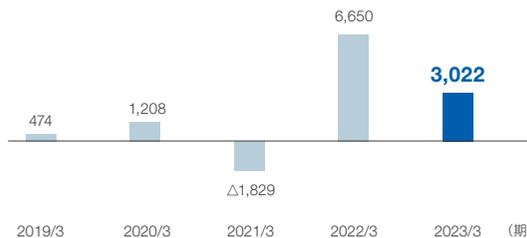
財務・非財務ハイライト

財務指標

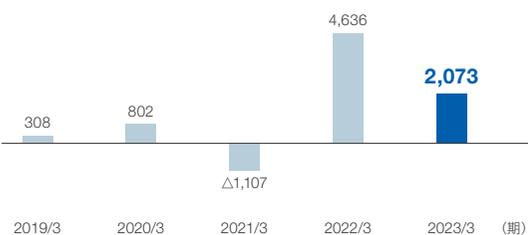
売上高(百万円)



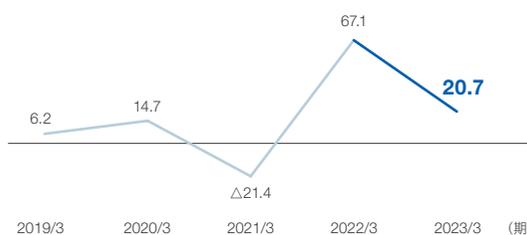
営業利益(百万円)



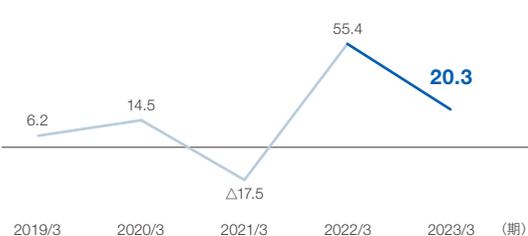
当期純利益(百万円)



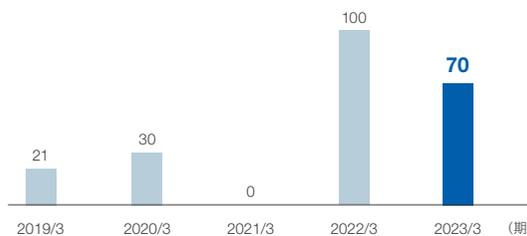
自己資本当期純利益率(%)



総資産経常利益率(%)

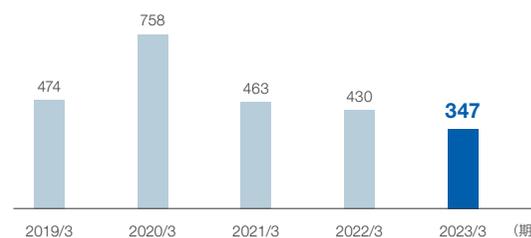


1株当たり配当金(円)

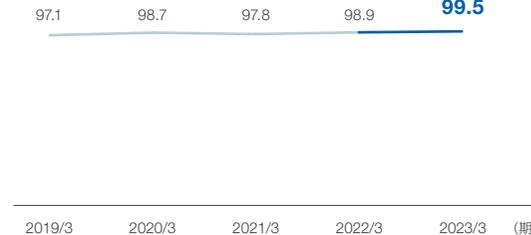


非財務指標

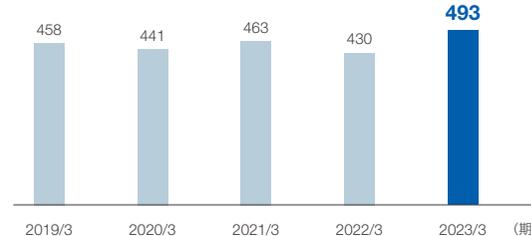
10年以上継続顧客数(社)



顧客満足度(%)



協力会社数(社)



さらに詳しい財務・非財務データについてはファクトブックにてご覧いただけます。

[▶ ファクトブック2023](#)



■ サステナビリティ推進体制

セレスポは、経営理念「セレスポの幸福」に基づき「サステナビリティ方針」を制定するとともに、イベントにおける持続可能性に関するマネジメントシステム「ISO20121」を活用し、組織運営や事業活動に取り組んでいます。

■ ISO20121の運用

2回目となる、認証機関（第三者）による更新審査を実施し、ISO20121認証が更新されました。また、毎年各部署からISO20121推進担当者を選任し、ISO20121を活用した確実なサステナビリティ

の推進を行っています。当該年度は更新審査から得られた新たな課題の解決に向けて、社内オンラインセミナーも実施。マネジメントシステムにおけるPDCAによる全社的な取り組み改善を行っています。

主な活動

- 全社におけるISO20121に準じたESMS*の構築と運用、社員教育など
- ※Event sustainability management systems



■ Positive Impact Events 日本事務局

イベント分野のサステナビリティ教育を行うイギリスの団体Positive Impact Events（本部：マンチェスター）と連携し、イベントサステナビリティに関する海外事例や情報の国内への発信、啓蒙などを行っています。

ISO20121とは

2012年6月に発行された国際標準規格。イベント分野においてサステナビリティに取り組んでいくため、環境、社会、経済の側面から影響を管理していくためのマネジメントシステム。セレスポは2016年11月に日本ではじめて組織全体を対象にした認証を取得。

■ イベントサステナビリティ推進チーム

各部署から専任したISO20121推進担当者と共に、イベントを通じたSDGsへの貢献、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れたユニバーサルイベントの推進など、イベントサステナビリティに関する社員のスキルアップや活動支援、情報発

信などを行っています。また、NPOや同業他社との連携など社内外において活動を行っています。2023年度からは事業支援部内にイベントサステナビリティ推進チームを設置し、より実務面での実行を強化します。

主な活動

- サステナブル・ブランド国際会議 2023東京・丸の内／サステナビリティ・アドバイザー（主催：株式会社 博展）
- 2022年度 サステナブル・ブランド国際会議 学生招待プログラム 第3回 SB Student Ambassador 北海道ブロック大会／協力
- 第7回パラ大学祭／共催（主催：NPO法人D-SHIPS32）
- 社内セミナー（テーマ：ISO20121、サステナブル経営、サステナビリティ潮流など）



サステナブル・ブランド国際会議 2023
東京・丸の内



第3回 SB Student Ambassador
北海道ブロック大会



第7回パラ大学祭

主な活動

- イベントサステナビリティ情報発信、グッドプラクティスの共有など
- Positive Impact Events本部主催イベントへの協力



サステナビリティへの
取組事例

テーマ: ESG	テーマ: ISO26000	会社の取組: ISO20121		関連するSDGs
		重要課題	主な取組目標	
環境	環境	省資源、省エネルギーの推進	エネルギー使用量の削減 クリーンエネルギーの活用	   
		廃棄物管理	廃棄物の抑制、適正な処理 リサイクルの推進	
		森林資源の保護 生物多様性の保護	グリーン購入、エシカル消費の推進 イベント資材へのエコ素材の活用	
社会	人権	ダイバーシティ&インクルージョン 人権尊重	平等な労働環境の整備 女性の活躍推進 障がい者雇用と支援体制の強化	  
	コミュニティへの 参画・発展	コミュニティへの参画 地域貢献 教育および文化 健康・ウェルネス	地域行事への参画、ボランティア参加 ユニバーサルイベントの増加 スポーツ体験教室の開催 サステナビリティ教育の実施	  
		災害支援	災害からの早期復興	
	消費者課題	安全・安心の確保	イベント会場の安全管理 交通違反・事故ゼロ 提供品質の向上、提供サービスの拡大	 
		情報の適切な処理	情報漏えいゼロ 適時適切な情報開示の実践	
労働慣行	労働安全衛生	働き方改革法案の順守 ワークライフバランスの向上 社員の健康レベルの向上 労働災害ゼロ	 	
	人材育成	教育・研修機会の提供 社員の自発的な成長の支援		
ガバナンス	組織統治	コーポレート・ガバナンス	内部統制の強化 外部意見の経営への取り込み	 
		リスクマネジメント	定期的なリスク認識と対策の見直し	
	公正な事業慣行	コンプライアンス	コンプライアンスの徹底 ハラスメント教育	
		公正な競争・取引	下請法等の取引に関する法令の順守	



■ 環境への取組

グリーンエネルギーの活用

セレスポでは、自社契約物件において再生可能エネルギーを活用した電力への切り替えを2019年より行っております。SDGs「目標7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に該当する活動として、今後も各拠点の状況に合わせて、順次再生可能エネルギーへの切り替えを進め、脱炭素社会を促進するための取り組みに挑戦してまいります。

再生可能エネルギー利用拠点数
14拠点

イベント制作における廃棄物の削減

「省エネルギー生産を心掛け、貴重な資源を無駄なく繰り返し使用してゴミを減らす」ことをテーマに、廃棄物排出量の削減に取り組んでおります。①リサイクル素材由来の製品、②廃棄時にリサイクル可能な素材製品、③リユース製品、④製造・

使用・廃棄時にCO₂排出量を削減できる製品、⑤小型化・軽量化によって運搬・作業効率が上がる製品、⑥分解・分離が可能で長寿命化が図れる製品、⑦水平リサイクルが可能な製品等の優先的な活用を目指します。



■ 安心・安全の確保

交通事故・違反ゼロ

交通事故・違反は関わった全ての人を不幸にするもので、これをゼロにすることを目指しています。近年の車両運転離れに対して新入社員の運転研修を行っており、研修前と比べて20代の社員の交通事故・違反件数は半減しました。また、安全意識の継続のために月ごとに重点項目を決めて全部署に展開し、事故・違反発生時には再発防止に向けた注意喚起を行っています。これからも交通事故・違反ゼロを目指して活動していきます。



■ 陸上部

セレスポは、国が推進するスポーツ振興の取り組みに賛同し、2013年に陸上部を設立しました。現在は3名の選手が所属しており、日々、トレーニングと競技大会への出場、所属先での業務に励んでいます。セレスポ陸上部は、アスリートの自己実現によるスポーツへの興味喚起を促すとともに、地域の子供たちへ陸上教室などのスポーツ普及活動を通して経営理念である「笑顔のある明るい社会づくり」に貢献してまいります。



©フォート・キシモト

[Webサイト 陸上部紹介ページ](#)



人材育成

教育・研修

社員の職種や職層に合わせた研修プログラムを整備し、実施しています。

コロナ禍では、オンライン会議システムツールを用いて、遠方部署やテレワークを活用している人にとって、参加する場所を限定せず、受講しやすい環境を整備しています。研修内容に関しては、組織運営・人材育成・キャリア支援の3つのカテゴリごとに職種や職層に合わせ、プログラムを構築しています。当社の研修は受講率が高く、受講することで部署を超え

るコミュニケーションの場としても大きな役割を果たし、多くの気づきを創出しています。今後は、研修対象者を立候補制にし、より積極性や自発性を高める人材育成を目指していきます。



多様な働き方への対応

スーパーフレックス制度の導入と新型コロナウイルスの感染拡大が同時期だったことで、多くの社員が同制度を導入当初から活用し、導入から数年たったいまでは、制度内容の理解も深まり、有効活用している社員が増えていると感じます。スーパーフレックス制度とともに全社員のパソコンをデスクトップ型からノート型に変更、ポケットWi-Fiの貸与拡大、スマートフォンアプリの充実等、情報機器も揃えてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、働く場所に拘らなくて済む環境が整備されました。この変化を止めることなく引き

続き社内制度や環境を整えることで、仕事の質を落とさずに、個々の状況やライフスタイルに合わせて働き方の実現を目指していきます。



健康経営

当社では、会社全体の「成長力」「人材創造力」の向上、「企業力」の増強につながる健康経営について、積極的に取り入れています。従業員の健康増進・活力向上を、計画に沿って実施しています。近年では、①働き方改革法案の順守②ワークライフバランスの向上③社員の健康意識の向上④労働災害ゼロというカテゴリに分け、それぞれの課題解決に努めています。社内研修では、健康経営の推進に向け、組織づくり一人一人の健康意識の底上げをテーマに、職層ごとに内容の

異なる研修を実施しています。加入している健康保険組合との連携もあり、健康経営を推進し数年が経ち、少しずつですが、成果が数値に表れ始めています。社内にグループウェアが導入されて以来は、情報を発信する場が増え、会社と社員と一緒に課題の解決に取り組めるようになりました。また、コロナ禍で自身や家族の健康についての関心が高まりました。この流れを途絶えずに従業員の健康増進・活力向上を目指し推進していきます。

健康経営施策一覧

① 宣言	● 中期経営計画、年度計画にて健康経営に取り組むことを発信 ● 「健康経営宣言」の作成
② 組織づくり	● 経営層を巻き込んだ組織体制を発表 ● 社内等に明文化し、発信
③ 課題の確認	● 健診結果の有所見率が全国平均を下回っている項目に関して目標を設定 ①脂質 ②糖代謝 ● 健康経営方針の発信不足
④ 計画作成・実行	● 働き方改革 ● ワークライフバランスの向上 ● 社員の健康意識の向上 ● 労働災害ゼロ



グループウェア

左記④の具体的な施策

計画内容	取組内容	達成目標
働き方改革	有給休暇5日取得	取得率100%
	長時間労働削減	前年比10%減
	労働関連法の順守	完全順守
ワークライフバランスの向上	社員満足の向上	各制度の導入、改善
社員の健康意識の向上	一次検診受診	受診率100%
	二次検診受診率の向上	前年比受診者5%増
	産業医面談受診率の向上	前年比受診者5%増
	健康指導参加率の向上	前年比参加者10人増
	健康経営の社内外浸透	経営層からの発信
労働災害ゼロ	食生活の改善	食生活改善情報の発信
	業務調整会議の充実	開催率100%



■ コーポレート・ガバナンス体制

■ 基本的な考え方

当社は「セレスポの幸福」の実現に向け、中長期的な企業価値の向上とステークホルダーとの良好な関係の維持・発展に努めております。次の考え方にに基づき、コーポレート・ガバナンスの充実に継続的に取り組んでまいります。

- 1 健全性と透明性が確保された迅速な意思決定を可能とする体制整備を進める
- 2 株主の権利を尊重し、平等性・透明性を確保する
- 3 会社情報を適切に開示する
- 4 株主総会を株主との対話の場と位置付け、株主視点に立った真摯な対応を実践する
- 5 SDGsへの取り組みを進めることで企業理念の実践に努める

■ 内部統制システムの強化

当社は、会社法に基づき「内部統制システム構築に関する基本方針」を定めており、取締役会はその整備状況を確認・検証し、必要に応じて見直しを行っております。

■ コーポレート・ガバナンス体制

取締役会

取締役8名（うち、社外取締役1名）、監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成され、月1回以上開催。経営に関する重要事項を審議・決定しております。

監査役会

監査役3名（うち、社外監査役2名）で構成され、月1回以上開催。

監査役会で定めた監査方針に基づき、取締役の業務執行の監督を実施するほか、重要な社内会議での意見陳述を行っております。

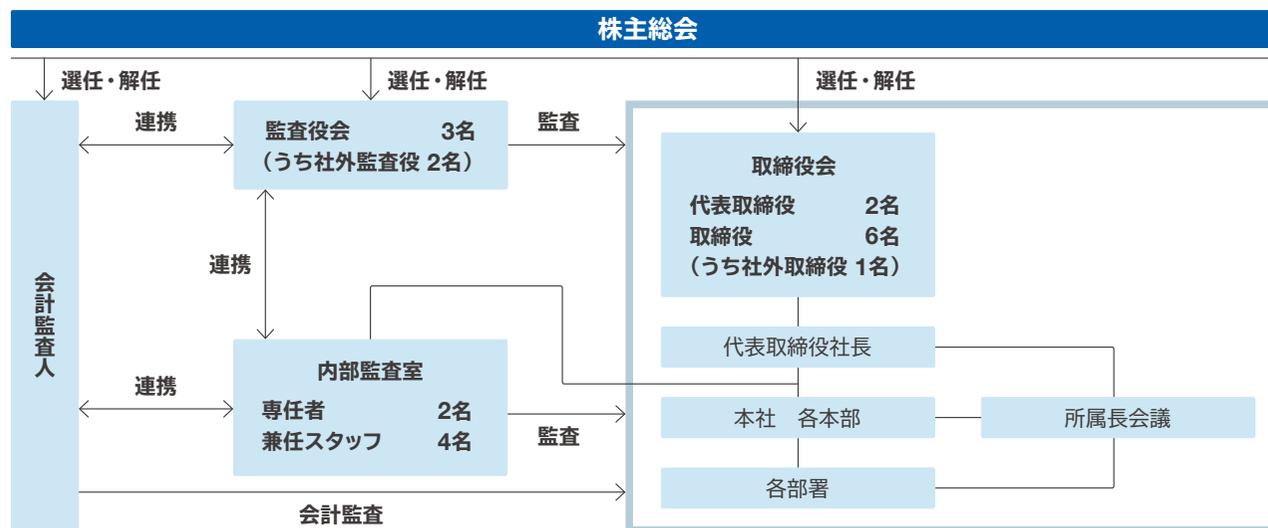
役員ミーティング

代表取締役、担当取締役で構成され、適宜開催。取締役会に準ずる機関として、重要事項の審議・検討を行っております。

所属長会議

代表取締役、担当取締役、監査役、各部門および各部署の責任者で構成され、原則月1回開催。各部門の業務執行状況の管理、部門間での情報共有ならびに相互チェックを実施しております。

コーポレート・ガバナンス体制図





役員紹介



稲葉 利彦

代表取締役会長

1954年生まれ。1976年、株式会社伊勢丹に入社後2001年より2006年まで天津伊勢丹の社長。2004年、天津日本人会会長。2007年、株式会社セレスポへ入社。2008年、代表取締役社長就任。2022年、代表取締役会長就任。(一社)日本イベント産業振興協会理事。



田代 剛

代表取締役社長

1964年生まれ。1983年、株式会社セレスポ入社。名古屋支店長として中部エリアの営業力および施工力強化に取り組む。2007年、取締役就任。行幸啓行事をはじめとする大型案件の元請受注環境を確立し、競争事業を牽引する。2022年、代表取締役社長就任。社会変化に適応し続けられる「強固」で「強靱」な組織づくりに取り組む。



鎌田 義次

専務取締役

1963年生まれ。物流業・メーカー等を経て、1995年、株式会社セレスポ入社。仙台支店長、東京支店長などを歴任。2008年より、スポーツ事業部長としてスポーツイベントの売上拡大およびスポーツ業界との関係構築に努め、スポーツ事業を牽引。2012年、取締役就任。2022年、専務取締役統括本部副本部長就任。



生田 茂

常務取締役

1963年生まれ。1982年、株式会社セレスポ入社。営業・施工の幅広い分野に従事し、東京支店長、生産本部長を歴任。2015年に取締役就任後は事業支援部長として全社にわたる業務構造改革を推進。2019年、常務取締役就任。現在、事業本部長として中長期の事業戦略立案およびそれに向けた組織体制の強化を担当し、企業価値向上に取り組む。



堀貫 貴司

常務取締役

1961年生まれ。株式会社三菱銀行にて国内支店長などを歴任。2013年、執行役員経理部長として株式会社セレスポに入社。2014年、取締役就任。本社部門の組織体制の整備に尽力。2022年、常務取締役に就任し、コーポレート本部長として法務、財務、会計、人事、IRなど管理部門関連業務全般を幅広く管掌する。



松田 英彦

取締役

1962年生まれ。1985年、株式会社セレスポに入社。東京支店長やさいたま支店長などを歴任。イベント制作の現場責任者として営業・制作に関する幅広い業務に従事。2019年、取締役就任。現在、事業支援部長として営業開発および社外連携を推進するとともに、全社にわたる営業関連業務の支援を担当する。



林 秀紀

取締役

1974年生まれ。1996年株式会社セレスポ入社。愛知支店長や名古屋支店長を歴任。営業分野において幅広い業務に従事。2018年、執行役員就任後は、その卓越した見識と実績を生かし、全国の営業拠点を牽引。2021年、取締役就任。2022年、コーポレート本部副本部長就任。管理部門全般を担当するとともに、2025年大阪・関西万博に向けた業務推進を担当。



奥田 かつ枝

社外取締役

1963年生まれ。三菱信託銀行株式会社に不動産開発、国際部門予算・財務管理を担当。その後不動産鑑定業界に転じ公益社団法人日本不動産鑑定士協会連合会常務理事などを歴任。現在、株式会社九段緒方総合鑑定代表取締役、株式会社シーアールイー社外取締役、マルハニチロ株式会社社外取締役、国土交通省審議会専門委員などを兼務。法務、経営、財務など幅広い知見を有する。



中澤 龍男 常勤監査役

1957年生まれ。日産自動車株式会社において豊富な国際経験を有する。2001年に株式会社セレスポ入社。人事、総務、内部監査、営業、営業支援と多様な業務を歴任。2021年、監査役就任。豊富な経験と広い見識を生かし、監査役として株主の目、法律の目、社会の目の3つの目を働かせ、実効性の高い監査を行う。



石川 浩平 社外監査役

1981年生まれ。監査・会計・コンサルティング等に精通しており、公認会計士として、星山税理士事務所、御成門公認会計士共同事務所、監査法人アリア、有限責任監査法人トーマツに在籍。現在は監査法人FRIQ代表パートナーを務める。2022年、当社補欠監査役を経て、2023年、当社社外監査役就任。豊富な経験と実績により、監査役として公正中立且つ実行性の高い的確な提言を行う。



遠藤 直子 社外監査役

1978年生まれ。弁護士として企業法務の分野に精通し、幅広い経験を有している。2001年、第一生命保険相互会社入社。2007年、司法修習生採用を経て、2008年、弁護士登録、弁護士法人小野総合法律事務所入所。2019年、日本カーバイド工業株式会社社外取締役就任。2023年、当社社外監査役就任。豊富な経験と法務に関する広い見識により、監査役として公正中立且つ実行性の高い的確な提言を行う。

取締役の専門性

	企業経営	事業戦略	営業・マーケティング	財務・会計	法務・リスクマネジメント	人事・労務	情報システム	サステナビリティ	イベント制作
稲葉 利彦	■	■	■	■	■			■	
田代 剛	■	■	■		■			■	■
鎌田 義次	■	■	■						■
生田 茂	■	■	■			■		■	■
堀貫 貴司	■			■	■	■	■		
松田 英彦	■	■	■				■	■	■
林 秀紀	■	■	■				■		■
奥田 かつ枝	■			■	■	■			

執行役員

執行役員 パブリック事業部長	齊藤 信行
執行役員 事業支援部副部長	朝比奈 徳洋
執行役員 スポーツ事業部長	望月 浩
執行役員 東京支店長	志賀 幹彦
執行役員 SP・PR イベントオフィス支店長	唐沢 洋平
執行役員 経理部長	久保田 裕
執行役員 大阪支店長	小林 哲也
執行役員 人事総務部長 兼 広報室長	越川 延明



社外監査役メッセージ

これまでの
知見・経験を活かし
「セレスポの幸福」の
実現に貢献します。

社外監査役

石川 浩平

■ 公認会計士としての専門性を活かしていく

このたび社外監査役に就任しました石川浩平です。

私はこれまで公認会計士として会計監査に関連するさまざまな業務を経験してきました。前職の有限責任監査法人トーマツでは、上場会社・上場準備会社・ファンド等の会計監査、IPO課題調査、各種アドバイザリー業務に従事し、現在は監査法人FRIQの代表パートナーとして活動しています。トーマツ在籍時にセレスポの会計監査人として数年にわたり関与した経験から、監査役就任のお話をいただき、2022年6月に補欠監査役就任、そして2023年6月の株主総会で社外監査役に就任しました。

公認会計士の主要業務である会計監査に必要な知識・経験があることはもちろん、監査業務では多くの経営者の姿勢やガバナンス体制を見てきましたので、このような知見や経験を、セレスポの社外監査役として十分に活かしていきたいと思っています。

■ セレスポの魅力は「現場力」と「人間力」

トーマツ在籍時から、セレスポは「現場力」がとてもある会社だと思っていました。全国各地の支店に会計監査の一環で訪問し、各事業所の所長とお話をする機会がありましたが、各地域で競合他社が多い中、自社の強みや弱みをよく把握されている印象でした。また、一つ一つのイベントを大事にされており、お客さまから「セレスポにお願いしたい」と言われる案件が非常に多くあることを聞きました。新型コロナウイルス感染症の影響を非常に受けた時期もありましたが、営業

基盤や人脈を含めて潜在的な強みがあること、また従来のイベントだけではなく、イベント×DX、イベント×AI、イベント×ITといった一歩先をいく対策・工夫を絶えず前向きに考え続けられている点は、今後の成長に向けて、とても期待ができると感じています。

また、私が会計監査人として接していた当時、セレスポの役員の方々に対しては固い印象を持っていましたが、実際に直接お話をさせていただくと、皆さんオンとオフのメリハリが非常にあり、ユーモアもあってとても「人間力」の高い方々だと感じました。これはひとえに、役員の方々が、社員や顧客だけでなくあらゆる角度への貢献を軸とした「セレスポの幸福」という経営理念を体現していることの証左だと思います。

■ 経営理念の実現に向けた一翼を担う

会社を取り巻く環境は常に変化しており、ガバナンスのあり方もそれに合わせて変化していきますが、ガバナンスの要は、何でも忌憚なく言い合える関係性と、それぞれの役割を担う多様な関係者とのコミュニケーションだと思います。コーポレート・ガバナンスの目的は、株主や投資家、顧客、取引先、従業員といったステークホルダーの保護と中長期的な企業価値の向上ですが、それはまさにセレスポの経営理念にある「イベントを通じて自らを含む周囲の幸福を実現し、笑顔のある明るい社会づくりに貢献する。」ことに通じるものがあります。社外監査役の立場として、この経営理念の実現に向け、その一翼を全力で担っていききたいと思います。



会社情報

会社概要 (2023年3月31日現在)

商号	株式会社セレスポ 英文社名: CERESPO CO.,LTD.
証券コード	9625
本社	〒170-0004 東京都豊島区北大塚1-21-5 TEL: 03 (5974) 1111 / FAX: 03 (5394) 7651
設立年月日	1977年7月21日
資本金	13億7,067万円
事業内容	1 イベント、プロモーション、スポーツ大会、式典、レクリエーションの企画、制作、会場設営、運営および進行 2 上記に関わる物品・什器備品の企画、開発、製造、販売およびレンタル 3 土木ならびに建築の設計監理および施工 4 警備業 5 上記に付帯する一切の業務
登録・許可	建設業許可: 東京都知事 許可(特) 第140322号 一級建築士事務所: 東京都知事登録 第42544号 警備業認定: 東京都公安委員会 第30003046号 屋外広告業登録: 東京都屋外広告業登録 都広第1137号 プライバシーマーク: 第17000187号 ISO20121認証取得
従業員数	397名

株式情報 (2023年3月31日現在)

株式の状況		
発行可能株式総数	22,000,000株	
発行済株式総数	5,703,500株	
株主数	3,830名	
大株主		
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社スマイル	1,100,000	19.69
セレスポ従業員持株会	324,252	5.80
三木 征一郎	155,524	2.78
稲葉 利彦	141,956	2.54
野村證券株式会社	85,900	1.53
北原 美子	80,000	1.43
磯野 正美	64,100	1.14
山下 良久	61,200	1.09
堀江 豊	59,000	1.06
田代 剛	56,629	1.01

(注) 1. 当社は、自己株式を117,324株保有しておりますが、上記株主からは除外しております。
2. 持株比率は、自己株式を控除して算出しております。

さらに詳しい会社情報は、セレスポのコーポレートサイトにてご覧ください。

[> セレスポコーポレートサイト](#)